

市立

いちかわ

自然博物館だより

平成29年(2017年)

12-1月号

(通巻 173号)

2017年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！

いきもの
写真館



自然博物館収蔵写真

ニホンノウサギ

昨冬、長田谷津（大町自然観察園）で撮影しました。市川市内では絶滅？と考えていたので、思わぬ朗報でした。

P1 ☀️ いきもの写真館
ニホンノウサギ

P2 ☀️ 長田谷津を解剖する
広がる斜面林
/ 3

P4 ☀️ 身近なところに花鳥風月
クビキリギス

P5 ☀️ 街かど自然探訪
二俣・日枝神社のケヤキとタブノキ

☀️ くすのきのあるバス通りから
コウモリと嫌われ者の虫

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
クサフグのこども

P7 ☀️ わたしの観察ノート
9月～10月の記録

P8 ☀️ 行事案内

長田谷津を解剖する

広がる斜面林

斜面林の変化

長田谷津の斜面林は、一見するといつも同じように見えます。ですが10年くらいの単位で見ると、ずいぶんと変化しています。その変化は、概ね次のようです。

- ①. 稲作が行なわれていた時代は、田んぼが影にならないように斜面林の樹木は管理されていた。
- ②. 自然公園となり農作業の手が入らなくなると、斜面林の樹木は自由に成長できるようになった。
- ③. 木が大きくなり、やがて上方向への成長が詰まると、より明るい谷側へ枝を伸ばすようになった。
- ④. 後発の樹木は上に伸びることができず、幹そのものが傾きながら谷側へ伸びていった。

- ⑤. 谷側へ伸びた樹木の影響で谷底が影になり、それまで生えていた植物が姿を消した。
- ⑥. 斜面裾には土砂もたまり、そこに若木が生え、ツルが絡んでヤブになり、環境的には斜面林の一部になった。

この⑥が、現状にあたります。この変化をひと言で言うと、斜面林が広がって谷底の一部（辺縁部）を飲み込んだ、といったところでしょうか？

現状をさらに放置すると、斜面林の枝が枝垂れるように湿地に接続し、谷全体に「みどりの布団」をかぶせたような景観になります。長田谷津左岸（東側）の観賞植物園とバラ園の間は、すでにこの状態に至っています（写真01）。園路が無いので、伐採などの手が入らなかったからです。

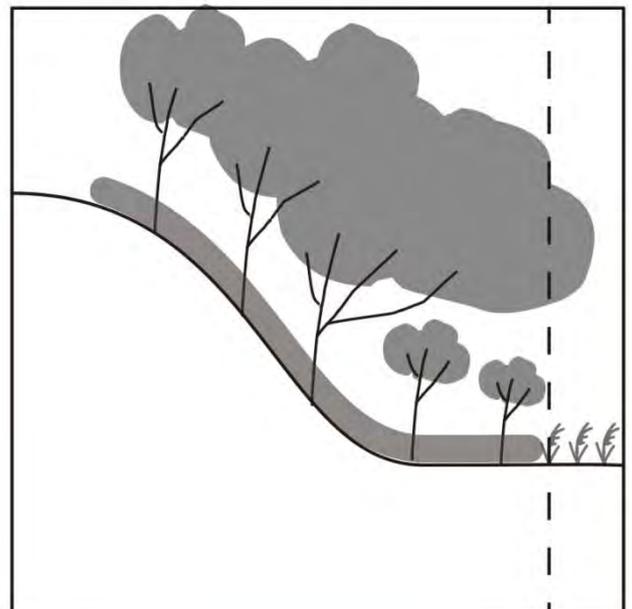
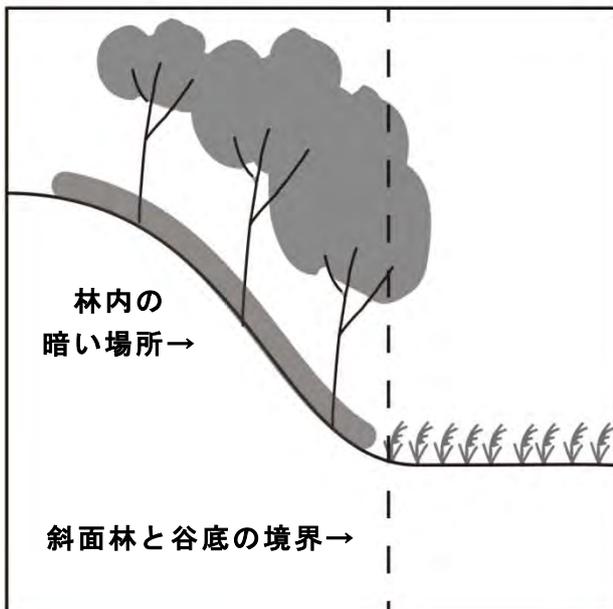


図 01 斜面林の推移（左図から右図へ推移した）

斜面林の樹木は上方向だけではなく、明るい谷方向へ枝を伸ばした。また、後発の樹木は、幹そのものが谷方向へ傾いて成長した（図示はしていない）。そのため谷底が影になり、それまであった植物が無くなり、低木やツルといった斜面林と共通の植物が生えるようになった。あわせて常緑樹が増えたため、斜面林に飲み込まれた谷底はすっかり暗くなった。

自然な姿

「みどりの布団」をかぶせた状態の場所、つまり斜面林の樹木の枝が湿地に接続した場所を歩くと、その枝の裏側には空間がありました。そこには湧水があり、ところどころには水がたまっていました。木々の枝葉のおかげで風や陽射しが弱められる穏やかな空間で、カワニナやサワガニが暮らし、野鳥が水浴びをし、ホタルが群れるにはちょうどいい環境でした。

おそらくこれが、谷津の斜面裾の「自然な姿」なのでしょう。もともと斜面裾のギリギリまで湿地の状態というのは、稲作を行う上で最大限の収量を求め、また水の管理の必要性があったためにそうしたのです。人手が入らなくなれば「自然な姿」に戻っていくわけです。

長田谷津を自然観察園として管理する場合、すべての場所を「自然な姿」にするわけにはいきません。長田谷津左岸（東側）の観賞植物園とバラ園の間は今後も手を入れずに保全する予定ですが、他の場所は「観察と散策」に適した状態にするための管理が必要と考えています。



写真 01 斜面林が谷底に接続した景観

長田谷津左岸（東側）の観賞植物園とバラ園の間

園路から斜面裾が見えるように

長田谷津（自然観察園）の湿地には、木道形式の園路が設けられています。園路は斜面裾から少し離れた湿地上にあり、斜面裾に沿って谷の左右岸にそれぞれ1本ずつあります。この園路の位置が想定しているのは、園路から斜面林（斜面裾）と湿地の両方を観察するという利用です。仮に園路が斜面裾にあれば、観察のメインは斜面林内となり、湿地側は概観するだけになります。逆に谷中央にあれば、斜面林と斜面裾の観察はあきらめることとなります。現在の園路位置は、「谷津」の2大要素をどちらも観察することを想定しています。

ですから、谷底の辺縁部が斜面林に飲み込まれた現状は望ましいものではありません。園路を歩いても斜面裾の湧水や斜面林内がほとんど見通せないからです。今後の管理では「拡大した斜面林」部分について伐採や枝落とし、ツル払いを進める必要があります。そのせいで現在よりも観察しにくくなる生き物も出てしまいます。可能な範囲での配慮は必要ですが、大筋を変更することはありません。



写真 02 谷側に伸びる枝と園路

2014年の大雪の翌日の景観（積雪時は、斜面と谷底の関係がわかりやすいので）



クビキリギス（コンクリートブロックに置いて撮影）

身近なところに花鳥風月

当館学芸員の自宅の庭で出会ったさまざまな生き物を、
このコーナーでは紹介しています。

緑のカーテンを片づけ、草むしりもしました。

雑草がワイルドに茂った中から

クビキリギスが出てきました。

成虫で越冬し、来年の5月ごろに

ジーと強い声で鳴きます。

白黒の紙面ではわかりませんが、桃赤色と呼ばれる

美しい体色の個体でした。

博物館だよりのカラー版がウェブサイトにあります。

紙版をご覧の方は、見てみてください。



街かど自然探訪

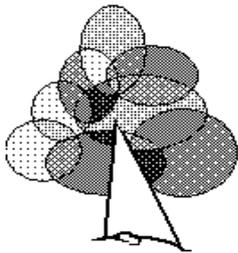
おじゃまします!

ふた また 二俣・日枝神社のケヤキとタブノキ

日枝神社に行きました。御社の後ろ、道に面して、大きなケヤキが2本とタブノキがあります。いずれの幹も抱えきれないほどの太さです。ケヤキはすんなりした枝を上向きに伸ばしますが、タブノキはがっしりとした枝が横向きに伸びています。西船橋駅の南側、住宅が密集している地域なので、周辺には他に大きな木はありません。紅葉が散り始めて日差しを透すケヤキと、こんもりと葉をつけたタブノキの濃い緑が対象的でした。



△左と中がケヤキ、右がタブノキ、。



くすのきのあるバス通りから No.115

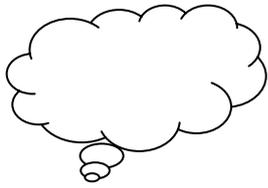
コウモリと嫌われ者の虫

10月中の事です。北方に住む長男夫婦の家で、布団を干していたのを忘れ、暗くなってから取り込んだそうです。室内に黒いものが飛び、停まったのを見ると、コウモリだったそうです。窓を開け放って置けば、自分から出ていくかと思っていたら、嫌われ者の虫(Gと呼ばれることもある、あの虫のことです)が外から飛んで来たそうです。夜、帰宅して玄関を開けると、一緒に入ろうと待っていたかのように、ドアの外に同じ黒い虫が潜んでいるの

を見たことがあります。

コウモリは袋を被せ、箱で覆い、壁との間に蓋を入れ無事外に逃がしたそうです。我が家のまわりや、真間川近辺でもコウモリはいます。小さいころ、暗くなるまで近所の友達と外で遊び、コウモリが飛ぶと「超音波を出しているから当たらないのだ」といいつつ靴をほうり上げていたのを思い出します。小学校にも行ってないのに何で知っていたのかな。

(M. M.)



展示室

No.17

飼育生物の話題



クサフグの ぐども

他施設のトビハゼ観察会を協力施設としてお手伝いした時、参加者の子どもたちがクサフグの赤ちゃんをすくいました（6月 江戸川放水路）。とても可愛かったので、日を改めてすくいに行って、それを水槽で飼育しています。

最初は1 cm ちょっとならなくて、ほんとうに赤ちゃんでした。11 月には5 cm を超えるまでに成長し、こどもと呼ぶ方がふさわしい大きさになりました。以前カクレマノミを飼っていたときもそうでしたが、撮影しようとカメラを向けると、かなり慌てた動きになります。向けられたレンズを見て、大きな魚を連想するのでしょうか？

写真は、投げ込み式のフィルターの上ろくに隠れているところです。この場所はお気に入り、開館前の水槽のメンテナンスが始まるまでは、だいたいここにいます。砂にもぐることが好きな魚なので、もう少し砂（サンゴ砂）を入れて、もぐった状態もお客さんに見てもらおうかとも考えています。

餌は、アメリカザリガニのむき身です。クサフグに限らず、いろいろな生き物がよく食べる万能餌です。飼育用の餌として資源化できたらいいのに、と思います。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・自然観察園の湿地を掘り返した場所があります。かつての水田雑草が復元することを期待しています。アゼガヤツリが生えてきたことは、意図したとおりの結果なのでうれしいです(9/3)。
- ・ムラサキシキブに大きな芋虫がいました(9/7)。博物館で飼育展示することにしました。種類はシモフリスズメのようです。
- ・田んぼ的な環境を増やしています。そのせいか、今季はアジアイトトンボがよく見られます(9/13)。
- ・台風の影響で強い雨と風が吹いてから数日、ジョロウグモの巣はきれいに張り直されていました(9/20)。ジョロウグモの巣が目立つようになると、秋の深まりを感じます。
- ・ミゾソバが満開でとてもきれいでした(10/8)。咲き始めてから2週間ぐらいで満開になります。

◆ふれあい農園より

- ・思わぬ夏日になった日、ふれあい農園のあぜ道を歩くと、ピョンピョンとコバネイナゴが跳ねました(10/12)。寒さには強いバッタなので、まだまだ元気そうでした。

◆坂川旧河口より

- ・フジバカマの花を見て歩いていたら、草むらからキジが出てきました(9/14)。最初にメス、続いてオスが現れました。この一帯は何十年も前からキジが途切れることなく暮らしてきた大切な場所です。

◆じゅんさい池緑地より

- ・遊歩道沿いにヤマボウシが植えてあります。丸い可愛い実がいくつもなっていました(9/16)。確認のためにひとつとって口に入れると、濃厚な甘みが広がりました。

◆中山より

- ・スダジイの木の下に「しいの実」がたくさん落ちていました(10/3)。子どもたちに教えると、みんなで拾っていました。

◆江戸川放水路より

- ・トビハゼの稚魚の調査を行いました(10/11)。今年生まれと思われる体長5センチ以下のトビハゼがわりと見つかりました。今年も繁殖はうまくいったようです。
- ・10月23日に行徳可動堰が開けられました。江戸川の水位を下げて町を守る一方、いつものように淡水魚が流下したようです。この日(10/27)は死んだハクレンやニゴイ、妙典樋管の入口で力なく群れるフナ類を見ましたが、30年前のような累々たる死骸はもう見ません。堰を閉めるタイミングを工夫してくれるので、かなりの数が自力で上流側へ戻ったようです。

以上 金子謙一(自然博物館)

9月は周期的に寒暖の変化や雨が降りました。10月に超大型で非常に強い台風21号の直撃を受けました。次の週にも22号が本州南岸を東進し、翌日は東京で木枯らし1号が吹きました。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 1月6日㊥、2月3日㊥、3月3日㊥、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
クロマツのある街なみ	12月17日㊥午前10時～11時30分	市川公民館 入口 午前10時
中山の地形探訪	3月11日㊥午前10時～11時30分	(未定) 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 12月24日㊥、1月28日㊥、2月25日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いして下さいますか。(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 3月4日㊥ (1月、2月はお休みです。) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。



年末年始のお知らせ

年末は27日まで
年始は3日より
開館いたします。

第29巻 第5号 (通巻第173号)

平成29年12月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/shisetsu/haku/>